

## A. I. （社会システム学科・2 年次生）

### I. 留学レポート

#### ① 留学を目指した理由

私が留学を目指した理由は、小学生のころから 1 か月未満の留学をしていて、留学に慣れたころに帰国して、行く度にもっといたかったという思いがあり、中学・高校と公立だったので、長期で行ける機会もなかったのが大学に入ったら長期で行くことのできるプログラムに参加したいと思っていたのでこのプログラムに参加しました。

#### ② 留学決定から出発までの準備期間

カナダのマニトバに留学が決定してからは単語帳を寝る前に眺めるや、頭の中でこの日常会話を英語で言い換えてみるなど日常で使うような身近な言葉を覚えるようにしました。またカナダのプログラムは 5 か月なのでビザの申請は要りませんでした。

#### ③ 現地到着後

現地到着後は、ホストファミリーが空港で名前を書いたボードを挙げて迎えに来てくれ 40 分ほど運転して大学の近くのホームステイ先につきました。大学から家までは歩いて約 15 分のところでした。

#### ④ 語学研修機関

大学のオリエンテーションでは、ブラジル人、中国人、韓国人、サウジアラビア人など様々な国から来ていて、アクティビティリーダーと呼ばれる人たちが、2、3 人が私たちと挨拶を踏まえてのコミュニケーションをとってくれ、大学案内をしてくれました。クラスは 6 つのクラス 200~700 で分けられていて文法、リーディング、スピーキングのクラスがあります。基本的な文法の勉強から始まり、上のクラスに上がるとドラフトライティングと呼ばれる作文添削をしたりするようになります。試験は中間、期末と 1 か月ごとにあり、パソコンでテストを受けます。これは毎日授業を受けていればパスできるので大丈夫ですよ！

#### ⑤ クラブ、課外活動、ボランティア活動

課外活動は月曜日に留学生が集まってスポーツをしたり、木曜日にはカンパシーショナルカフェでお菓子を食べてトランプをしながらみんなでわいわいしゃべったり、週末にはウィニペグを探検したり、カナダならではの体験ができるアクティビティを用意してくれています。

## ⑦ 長期休暇の過ごし方

長期休暇にはマニトバと一緒にいった 4 人でアメリカのディズニーマニトバ、ニューヨークに 10 日間とモントリオールに 3 日間行きました。私が一番感動したのはニューヨークでテレビで見る世界が目の前にあることに感動し、エンパイアステートビルディングからの夜景は最高に綺麗でした。

## II. 留学の感想

### ① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

留学中最も思い出に残っていることは、ウィニペグに流れているレッドリバーという川が凍って、そのうえでスケートを滑って遊んだことです。川が凍るということはまず日本ではないのでとても貴重な体験ができました。また、毎週火曜日に日本で公開する前に最新の映画が安く観ることができて、楽しみに毎週行っていました。「ベイマックス」、「アメリカンサニパー」、「博士と彼女のセオリー」などの映画を先に観ることができました。

### ② 留学中でつらかったこと、最も苦勞したこと

辛かったことはやはり言葉が通じなかったり、理解できなかったときにへこんで、孤独を感じたりはしました。どうして会話がうまくいかないのだろうと悩みました。しかし、ホストファミリーやカナダ人の友達がゆっくりでもいいし、話そうとしてくれれば理解できるから大丈夫だよといつも声をかけてくれたので、初めはうまくコミュニケーションをとれるか不安だったのですがいつのまにか家族や友達に冗談をゆったりできるくらい会話がスムーズになったので積極性が大切なのだとカナダに行って気づきました。

### ③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

文化の違いで驚いたことは、ウィニペグはとても寒いところなのですが、カナディアンはマイナス 30 度程度でも半袖、長そで、肌が見える格好を普通にします。私にとってはスノーウェアを着こんで毎日学校に行くことが普通だったので、私の友達の「寒い」の基準は「耳が痛くなったら寒い」と判断するようで服装の違いは本当に信じられなくて、ショックを受けました。

## III. 留学希望者へのアドバイス

### ① 日本から持って行って、特に役に立ったもの

日本から持って行って役に立ったものは、まずパソコンは絶対に必要です。課題などもパ

ソコンで提出することもあるので持っていくべきだと思います。秋学期に行くのであればカナダで買うこともできますが、本当に寒いのでスノーウェアもあればいいかなと個人的に思います。きれいめの服装も一枚あればパーティがあったりするので持っていくとおすすめです。

## ② 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

留学を通しての変化は、私は意見を前よりゆえるようになったと思います。違うことは違うと言えるようになり、表現力が豊かになりました。コミュニケーションをとる力も前より取りやすくなったと思いますし、友達にも前より明るくなった、話しやすいと言われました。語学力も上がりましたが、人として成長することができました。

## ③ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

このセメスター留学の 5 か月は長いと私は初め感じていました。しかし、5 か月というのは本当に一瞬で過ぎていきます。なにもせずに 5 か月ただただ過ごしては本当にもったいないです！なので、隣にいる人に話かける、なんでもイベントに参加してみるなど、できることはたくさんあるのでいろんなことに参加してみてください！私は初めの一か月が生活になれることができずあたふたして無駄な時間を過ごしてしまったと思いました。待っていてもなにも起きないので、色々な場所に出かけてたくさんの人に出会ってください！

## IV. 将来の目標

### ① 今後の進路、将来の目標・夢

将来の夢は、まだはっきりとは決まっていませんが、やはり英語を活かした職業に就きたいと考えています。そのためには TOIEC の点数をさらに上げていかなければなりません。だから、私は大学卒業までに目標の点数を超えられるように勉強しています。



これは IEP のアクティビティで、凍った川の上でスケートをしています。この川をたどっていけばアメリカの川まで続いているレッドリバーで、スケートリンクとは全く違うスケートを体験できます。これは本当に寒い国でないと体験できないことだと思うのでぜひ、ウィニペグに行く皆さんにはこれを体験してほしいと思います。



これは 2 月に行われるフランスのお祭りで氷の彫刻が飾ってあったり、部屋の中でフランスの民謡を聴いてみんなで踊ったりします。この写真の食べているものは氷の上でメイプルシロップを凍らせて木の棒に巻き付けて食べます。とっても甘いですがひんやりしていて寒いからこそ、食べたくなる気持ちがわかる食べ物です！

## M. S.（社会システム学科・2年次生）

### I. 留学レポート

#### ① 留学を目指した理由

私は今までに何度か海外旅行へ行ったことがあるのですが、そのときに英語がペラペラと話せたらカッコいいな、と思ったことが最初のきっかけでした。また、海外の文化や音楽、ファッションなどに大変興味がありました。いつ留学に行こうか迷っているときに、セメスター語学留学の募集の記事を見て、思い切って応募しました。また、この留学プログラムの行き先はカナダとアメリカという、私が一番憧れていた場所なので、私にぴったりのプログラムでした。

#### ② 留学決定から出発までの準備期間

まず、ビザについてですが、カナダは半年未満の滞在なら、必要がなかったので、ビザの申請に時間を費やすという心配はひとつもありませんでした。しかし、長期休暇の際に、アメリカ旅行へ行くかもしれない、ということを考えて、パソコンで簡単にできる、ESTAの申請をしておきました。また、勉強は、単語や文法もちろん大事ですが、しておくべきことはリスニングとスピーキングだな、と今になって思います。リスニングとスピーキングを勉強しておけば、現地到着後すぐに実践できるからです。また、勉強のほかには、自分の国や地元、自己紹介などを簡単でもいいので言えるように練習しておいたほうがいいなと思います。

#### ③ 現地到着後

私は、まず伊丹空港から成田空港、そしてバンクーバーを経由してウィニペグ空港へ行きました。到着翌日から学校が始まりましたが、ほとんどオリエンテーションで、書類を配られたり、学校案内をして頂いたり、出発前に事前に済ませておいたプレイスメントテストをもとにクラス分けをされました。また、方向音痴な私は、学校初日から学校内で迷ってしまったのですが、歩いていた大学の生徒に尋ねると、目的地まで送り届けてくれ、大変親切にいただきました。

#### ④ 語学研修機関

##### ◆ 施設・環境・スタッフ

学校はとても広く、ブックストア、スターバックス、カフェなども充実しており、バスで5分くらいのところには、\$1 ショップやマクドナルド、スーパーマーケット、アジア料理の

レストランがあるなど、不自由することは特になく、大変良い環境の下で生活ができました。また、何か困ったことがあれば、IEP のスタッフの方に尋ねれば、なんでも相談に乗ってもらえるし、先生もなんでも優しく教えてくれました。

#### ◆ 授業内容、課題、試験

授業は、月曜日から金曜日の週 5 日制で、文法、リーディング、スピーキング、リスニング、ライティングを主に学習していました。課題はほぼ毎日ありましたが、難しいということはありませんでした。しかし、プレゼンの前には準備をしなければいけないし、また、それが一人ではなく何人かとの発表となれば、話し合いをしたりするため、時間がかかり、少し大変でしたが、とても勉強になりました。試験は月末に行われ、2 か月に一度、クラスのレベルアップがかかった試験だったので、いつもよりも勉強が必要でした。

#### ⑤ クラブ、課外活動、ボランティア活動

IEP はアクティビティが充実していました。月曜日はスポーツアクティビティ、木曜日はカンパセーションカフェとランゲージエクステンション、土日にはスケートやハロウィンパーティー、冬まつり、スノーシューティング、ミュージアムなど、日本ではできないことまでたくさん楽しむことができ、充実した毎日を送っていました。

#### ⑥ 現地での住まいについて

私は、ウィニペグ滞在中は五カ月間ずっとホームステイをしていました。食事は基本作ってくれますが、学校へ持っていくお弁当は自分で作るというのがルールでした。また、友達と外食をするときは家族に伝えれば問題なしです。

#### ⑦ 長期休暇の過ごし方

クリスマスの少し前ぐらいから約 2 週間の長期休暇がありました。その際に、同女の友達と一緒にフロリダのディズニーワールド、ニューヨークのマンハッタン、モントリオールへ旅行しました。ずっと行ってみたい場所だったので、最高の思い出になりました。

## II. 留学の感想

### ① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

やはり、長期休暇の時に行ったアメリカ旅行です。大好きな多くのディズニーキャラクターに会うことができたし、テレビでしか見ることができないと思っていたタイムズスクエアも間近でみることができ、大満足でした。

## ② 留学中でつらかったこと、最も苦勞したこと

モントリオールに旅行へ行ったとき、空港にスーツケースが届いておらず、その旨を伝えるのにみんなで苦勞しました。また、すぐにホテル届けるといわれていたのに、結局届いたのが翌朝でした。また、その帰り道、税関でとめられたせいで、フライトをのがしてしまいましたが、係の人に次のフライトを確保してもらい、無事にウィニペグに帰ることができました。

## ③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

他国の方はレディーファーストを大切にしているとても感心しました。とくにカナダ人と韓国人の方に対して思いました。また、挨拶時にハグをするという文化は、相手とより親密になれる気がするので、日本にあってほしい、素敵な文化だなと思いました。

## Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

### ① 日本から持って行って、特に役に立ったもの

パソコン、iPhone、薬、コンタクトレンズ、基礎化粧品、ヒートテック。

### ② 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

到着後、ゆっくり話してもらってもわからなかったけれど、だんだんと耳が慣れて少し英語を聞けるようになったと思います。

### ③ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

もし少しでも行きたいな、と思っているのなら、絶対に行った方がいいと思います。1、2年生のうちについておくべきです。

## Ⅳ. 将来の目標

### ① 今後の進路、将来の目標・夢

TOEIC の点数を上げたいです。また、機会があれば、大学のうちにアメリカかオーストラリアに短期留学してみたいです。



ニューヨークの The Statue of  
Liberty にて



韓国の友達としたパーティにて

## S. Y.（社会システム学科・2 年次生）

### I. 留学レポート

#### ① 留学を目指した理由

私が留学を目指したきっかけは、大学 1 回生のときに友達と 2 人で海外旅行に行ったことです。もともと英語が話せるようになりたいと思っていましたが、実際旅行に行き、他国の方々が私たちに話しかけてくれた時や、お買い物をしているとき、英語があまり聞き取れなく、悔しい思いをしたためです。そして、今の時代、英語がとても重要視されているということもあり、より一層話せるようになりたいと思い、この留学を決断しました。

#### ② 留学決定から出発までの準備期間

留学が決定してから出発するまで、準備面に関しては、国際交流センターの方々から説明を受け、実際に UofM で学んでいらした、同志社の先輩方からお話を伺ったりしました。（私たちは同女から初めて、秋学期に UofM へ留学するため）そして、マニトバで調べる研究課題や地域について PC などを利用して調べ、より早く馴染めるように努力しました。また、勉強面では、映画を英語で見たり、CNN ニュースを見たりしてリスニング力、リーディング力を鍛えていました。

#### ③ 現地到着後

現地に到着して、荷物を取るところの前に、受け入れ先のホストマザーが私の名前を書いた紙を持って、出迎えてくれ、そこで初めて挨拶をかわし、車でホームステイ先に行きました。車に乗っている間に、バスの乗り方、有名なところ、おすすめのところなど教えてくれました。到着した 2 日後から学校だったので、到着した次の日は、お家で子供たちと遊び、極力自分の部屋には戻らず、距離を早く縮めようと努力しました。そして、2 日後にオリエンテーションが行われ、自分一人でバスに乗って学校へ行き、Extended Education についてや、校内について、アクティビティリーダーさんが一つ一つ丁寧に教えて下さいました。

#### ④ 語学研修機関

##### ◆ 施設・環境・スタッフ

私たちが行った頃は、9 月後半で、その時の気温が 5 度前後くらいだったので、学校の建物内と地下は、暖房で完備されていました。IEP での授業は、出来るだけたくさんの現地の人と触れ合うことが出来るように、学校内のあらゆる場所で行われます。そのため、学校

内をより詳しく知ることが出来、移動も楽しかったです。そして、スタッフの方々はとても優しく、気さくな方々ばかりで、たくさん話しかけてくれたり、いろいろなイベントに誘って下さいました。英語が分からない時は、優しく教えてくれ、みなさんととても親身で、とても楽しかったです。

#### ◆ 授業内容、課題、試験

授業面に関しては、クラスによって課題は違いますが、パソコンや携帯を利用して宿題や授業を行う時もあり、電子類は必須だと感じました。試験は、1か月に1回、mid term と final exam が交互にあり、mid term と final exam の平均が60点以上を超えたら次のレベルに上がれるというものでした。テスト内容も上のレベルに行くにつれて難しくなるので勉強は欠かせませんでした。

#### ⑤ クラブ、課外活動、ボランティア活動

私はクラブには入っていませんでしたが、IEP が行うボランティアに参加していました。そこでは、リサイクルに回された服を種類別に仕分けたりしていました。ボランティアは自主制ですが、体験してみて、たくさんのことを考えるきっかけの一つとなり、とても良い経験でした。

#### ⑥ 現地での住まいについて

前述したように、私はホームステイをさせていただき、部屋は一人一部屋与えられていて、とても広々していて快適でした。借りさせていただいている以上、1週間に一回掃除をしていました。食事については、朝、昼は、各自用意で、夜ご飯はホストファミリーが作ってくれました。夕食は基本的に、みんなで一緒に食べ、その日にあった出来事などを報告して、和気藹々とした雰囲気ですべてを楽しみました。

そして私のホストファミリーはホームパーティを開くことが大好きだったので、休日にはママ友さんがお家にいらして、一緒に話したり、天気がいい日の夜は、お庭のジャグジーに入ったりして海外の生活を楽しんでいました。用事のない休日は子供ホストシスター2人、ホストブラザー1人と犬がいたのでみんなで遊びました。通学面では、私の家は学校から遠く、だいたい1時間程かけて学校に行っていました。遠かったものの、いろんなところを通るため、学校帰りにダウンタウンによってお買い物をして帰る日も多々ありました。

## ⑦ 長期休暇の過ごし方

長期休暇中は、アメリカのオーランドに位置する、ディズニーランドとニューヨーク、カナダのモントリオールへ旅行に行きました。旅行に行くにあたり、ホテルや航空券など、学校内の旅行代理店で手配してもらいました。英語が通じず、困った部分も多々ありましたが、とても勉強になりました。はじめは、オーランドへ行きましたが、現地についてどうしたらいいのか分からず、困りましたが、たくさんの方々の優しい人柄のおかげで無事につくことが出来、みんなで安堵したのを覚えています。それからニューヨーク、モントリオールへと飛び、旅行中にも何かあればみんなで助け合い、且つ、本当に心底楽しむことが出来、最高の旅ができました！！

## II. 留学の感想

### ① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

留学中で楽しかったことは、いろんなところへホストファミリーや友達と出かけたことです。ホストファミリーとは、Thanks giving day の日に Assiniboine zoo へ行き、お昼ご飯はホストマザーが作ったサンドイッチやお菓子を持ってピクニックを楽しんだり、冬の日には、凍った川の上でスケートやそり滑りに行くなど、あらゆるところへ子供たちと一緒に出かけました。友達とは、Osborne village や downtown のお店を回り、グルメ旅をしたり、寒すぎる日には友達の家に行って皆で映画を見たりして楽しんでいました。学校の授業以外にも一緒に行動することで、より一層仲が深まりました。

### ② 留学中でつらかったこと、最も苦勞したこと

辛かったことは、やはり会話だと思います。Winnipeg に到着して、初めのころは、ホストファミリーやバスの運転手、先生が言っていることが全く理解できないとともに、自分の意見をうまく伝えきれないときもありました。自分では言えた！と思っても、相手には違うニュアンスで伝わっていたり...伝えたくてもどのように伝えたら良いのか分からない、もどかしさがとてもつらかったです。しかし、たくさんの人と話すことで会話力もリスニング力も高まりました。

### ③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

とても驚いたことは、みなさんご存知でしょうが、バスが定時に来ないということです。バスが来る時刻より 10 分早くバスで待っていたにも関わらず、バスがすでに行ってしまうていたり、逆に 30 分後に来たり...真冬に外で 2 時間ほど待ったこともあります。その時はさっきまで運行していたのに急にその日の運行を取りやめたらしいと、一緒に待っていたおじさんから聞きました。そして、幸いにもおじさんと行き先が一緒だったので、一緒に運行している違う路線を調べてバス停まで歩きました。

このような遅延などは日常茶判事です。もし日本の場合、何分遅延などの表示がありますが、小さいバス停にはないので、大変驚きました。また、人の温かさにもふれ、良い経験となりました。

## Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

### ① 日本から持って行って、特に役に立ったもの

・パソコンは本当に必需品だと思いました。なぜなら、先ほども書きましたが、online の宿題もありますし、授業でプレゼンも行うためです。

・秋学期に行くなら、スノーウェアとスノーパンツが必須アイテムです。私は Winnipeg に行く前にダウンジャケットがあれば大丈夫だろうと思っていましたが、ダウンジャケットだけでは Winnipeg の冬を乗り越えることはできません。私は特に人以上に寒がりなので、スノーウェアの下に 5 枚ほど着込んでいました。それでも寒かったです。また、手袋、帽子も絶対に必須です。(私は持って行ってなかったので black Friday の日に友達と polo park へ買いに行きました)

・クレジットカードはできれば 2 枚準備したほうがいいと思います。カードを 1 枚なくしました。また何らかの制限で使えなくなるかもしれないので、その時用に 2 枚あったほうが安心かと思います。

### ② 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

語学力に関しては、私は離国する前に映画などをよく見ていたので、帰国してから見ると、一言一句は聞き取れなくても、あっ！わかるといったような成長を感じました。会話が聞き取れることにより、こういうところではこのような言い回しをするんだなあと思強にもなりました。精神面に関しても成長したと感じました。

留学は楽しいですが、辛いこともたくさんあります。そのようなことに屈しないメンタルも身に付き、語学力の向上ももちろんですが、自己の成長にもつながりました。

### ③ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

もし今、少しでも行きたい！と思っている人は、是非チャレンジしてほしいです。自分には無理かなあと考えていても、気持ちさえあれば絶対に大丈夫です。私は高校生の時に留学に行くプログラムはありましたが、行きたいと思っていてもなかなか応募に踏み切れない自分がいました。時間が過ぎて、大学生になり、やはり留学に行きたいという気持ちは消えず、留学に行くなら今しかない！！と思い、応募しました。人生で初めての留学だったので不安もたくさんありましたが、あのとき応募して本当によかったと思っています。もし応募していなかったら、未だに心の中のモヤモヤは消えていないはずですよ。

また、異国で過ごすことにより、自分自身の成長にもつながったとともに、いつも支えてくれている親や国際交流センターの方々、友達に対する感謝もより一層感じることができました。留学は学生のうちにしかできないし、一生の宝物になるので、是非チャレンジしてもらえたらと思います。

## IV. 将来の目標

### ① 今後の進路、将来の目標・夢

将来は、国際色の強い職業に就きたいと考えています。具体的なことは決めていませんが、この留学で身に着けた英語力を生かし、グローバルな世界に羽ばたけたらと思います。



ホストシスターとブラザーと一緒に雪滑りに行った時の写真です。雪が凍っていて、スリル満点でした。



ホームパーティをした時の写真です。カードゲームや、おしゃべりをして楽しみました。

## M. S.（英語英文学科・2 年次生）

### I. 留学レポート

#### ① 留学を目指した理由

私が留学を考え始めたのは、大学 1 年の春休みの頃でした。英語を流暢に話せるようになることをひとつの大きな目標として本学の英語英文学科に入って 1 年が経ち、英文学科に在籍しているにもかかわらず英語を話すことに全く自信の無かった私は、このままではいけないと危機感を感じていました。こんな自分を変えるために留学をして、自分の英語力に自信が持てるようになりたいと考え始めました。そんな時に目に留まったのが、このセメスター語学留学の案内でした。一度も留学経験の無かった私は、いきなり留学に 1 年間行くことに抵抗があり、目標が英語力の向上だったので、半年間の語学留学であるこのプログラムが今の私にぴったりだと思い、迷わず応募しました。

#### ② 留学決定から出発までの準備期間

留学決定後から出国までの約 4 か月間は、ひたすら単語やフレーズを覚えたり、留学先で英語が聞き取れるかとても不安だったので、英語の音声と日本語字幕で洋画や海外ドラマを観るなどして、毎日必ず英語に触れるようにしていました。

英会話がとにかく苦手で、現地でコミュニケーションをとることがとても不安だった私は、Writing や Reading の勉強よりも、Listening と Vocabulary を増やすための勉強に専念しました。学習面以外では、航空券の購入と、留学先での長期休暇を利用してアメリカに旅行に行くことを考えていたので、ESTA というアメリカに短期入国する際に必要なビザのようなものを取得しました。

#### ③ 現地到着後

現地の空港に到着すると、ホストファミリーがネームプレートを持って待っててくださいました。ホストファミリーとは出国前にメールで連絡を取っていたので、すんなり合流できました。空港からホストファミリーの車に乗ってホストファミリーの家まで 30 分ほどかけて移動しました。現地到着の翌日に、ホストマザーが家の最寄りのバス停や、大学のバス停まで案内してくださいました。大学に初めて登校したのはオリエンテーションの日で、出国前に日本でパソコンで受けたプレイスメントテストの結果を受け取り、その結果に基づいて決められたクラスの発表がありました。また、

この日にスタッフの方に学生証を発行していただきました。

#### ④ 語学研修機関

マニトバ大学の敷地面積は大変広く、最初はどの建物がどこにあるのかを把握することに苦労しました。大学にはフードコートやカフェ、売店、ジム、スケートリンクなどがあり、とても設備が充実しています。IEP(Intensive English Program)の授業はクラスのレベルによって行われる建物が違います。授業内容はもちろん、先生の話す速さや使用する単語の難易度もクラスのレベルによって異なります。同じ名前の付いた授業でも、教える先生が変わると、授業の進め方や課題の内容や量も変わります。しかし、どの先生方も丁寧に教えてくださるので、英語力の伸びを実感することができます。ひとつのレベルで2か月ずつ授業を受けて、その1か月目の最後の週にある Midterm Exam と、2か月目の最後の週にある Final Exam、そして出席率や授業態度、課題の点数などから成績が出され、一定の点数以上を獲得すれば、ひとつ上のレベルのクラスに上がれます。Midterm Exam と Final Exam はパソコンで受けます。

#### ⑤ クラブ、課外活動、ボランティア活動

IEP のアクティビティで、食料を寄付する団体のお手伝いをするボランティアや11月に留学先であるウィニペグのダウンタウンで行われたクリスマスパレードのボランティアに参加しました。最初に挙げた方のボランティア活動の内容は、パスタをひたすら袋に詰めていくといったシンプルな作業でしたが、同じテーブルで作業をしていたIEPの生徒と楽しく会話しながら作業ができました。また、クリスマスパレードのボランティアは、11月にもかかわらず、-20度ぐらいのとても低い気温の中、フェンスを組み立てて並べたり、パレードのコースに見物人が入らないように看板を持ってパレードのコースの端を歩いて回るといった内容でした。写真を撮ろうとしても、スマートフォンの電源が寒さで勝手に落ちたり、寒すぎて手袋から手を出せないほど、11月とは思えないほど寒かったです。こういったボランティア活動に参加することによって交流の幅が広がり、楽しい時間を過ごせたので、参加して良かったと思います。

#### ⑥ 現地での住まいについて

私は諸事情で、留学の途中でホームステイ先を変更することになりました。変更前と変更後、どちらのホストファミリーもとても素敵なホストファミリーでした。最初のホストファミリーはイタリア人の老夫婦の方で、一緒にピザづくりをしたり、他のイタリア料理の作り方や文化を教えてくださいましたので、カナダにいながらイタリアに留

学しているような気分になりました。後半一緒に生活をさせていただいたカナディアンのホストファミリーには、11歳と13歳の女の子がいたので、一緒にカードゲームをしたり、映画をみたり、アイスクリームを食べに出かけたりと最初のホストファミリーとはまた異なった楽しい思い出ができました。ウィニペグのほとんどのお宅には地下があって、私はどちらのお宅でも地下にある部屋を使わせていただきました。また、最初のステイ先からはバス一本で10分程度で大学に通えましたが、二つ目のステイ先からはバスの乗換が必要で、大学まで1時間ほどかかりました。バスの乗換に失敗すると、とても低い気温の中、長時間バスを待つことになるので、バスを利用する前に必ずアプリを使ってバスの時間と乗換の場所をチェックしていました。

### ⑦ 長期休暇の過ごし方

12月のFinal Examが終わった後の長期休暇はアメリカのフロリダとニューヨーク、そしてカナダのモントリオールに旅行に行きました。アメリカとウィニペグの気温差が激しかったので、服装をどのように調節するかとても悩みました。旅行先では様々なトラブルもありましたが、特に大きな問題は起きず、楽しく旅行できました。日本から行くより安いので、長期休暇を利用してアメリカやカナダの他の都市に旅行に行くことをおすすめします。

## II. 留学の感想

### ① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

留学中、最も思い出に残っているのはクラスメイトのお宅で日本食パーティをしたことです。ブラジル人、ベネズエラ人、韓国人、中国人、日本人のクラスメイトと一緒に寿司とカリフォルニアロールを作りました。作り方を教えると、とても喜んでくれて、美味しくみんなで食べました。その後、様々なゲームをしたりして、日本でもメジャーなゲームでも国によってルールが違ったので、それを教えあうこともとても楽しかったです。英語で様々な国の人たちとコミュニケーションをとることが本当に楽しく、刺激的でした。

### ② 留学中でつらかったこと、最も苦労したこと

留学中一番困ったことは、食事です。最初のイタリア人のホストファミリーはほとんど野菜を食べないご夫婦だったので、ヘビーな食事が多く、毎日胃もたれをしていました。自分で野菜ジュースを買ったり、胃薬を飲んだり、外食で野菜を摂るなど体調

管理に気を付けていました。

### ③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

現地での生活でまず驚いたのは、出国前から聞いてはいましたが、本当にショッピングモールやカフェの閉店時間が早いことです。そしてやはり飲食店でのサービスの質の差です。Tip 制度がある分、飲食店のサーバーの方はこちらからおすすめを聞かずにともおすすめを教えてください、「写真を撮ってあげるよ。」と声を掛けてくれたり、日本には見られない積極的な姿勢が見受けられました。

## Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

### ① 日本から持って行って、特に役に立ったもの

パソコンは学校での課題や、国際交流センターに提出する月報の作成などに使うので絶対に持っていく必要があると思います。冬場にカナダのウィニペグに行かれる方は、ヒートテックを持っていくことをおすすめします。また、私の場合肌が弱いので、日本で使用していた化粧水や乳液、洗顔フォームなども持っていきました。

### ② 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

最初のうちは、緊張していたのもあり周囲の人の英語が聞き取れず、聞き取れたとしても何と返せばよいのか分からずとても焦りました。しかし、時間が経つにつれ、海外の友人もできて、コミュニケーションを積極的にとることによって、自然とリスニングとスピーキングのスキルが伸びたと思います。英語力の伸びは留学中さほど自覚していなかったのですが、留学後の TOEIC のスコアが留学前から 200 点以上伸びていたの、知らず知らずのうちに力がつくものなのだと実感することができました。また、この留学で積極性が身に付き、精神的にも成長できたと思います。

### ③ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

Semester 語学留学は、私のように留学に関心はあるけれども、今まで海外留学経験がなく、いきなり年間留学に行くことを不安に思っている方にぜひ挑戦してみてください。半年間のプログラムではありますが、とても得るものは大きかったです。私はまだ全く自身の英語力に満足はしていませんが、この留学で自信の英語力に自信がつかしました。

#### IV. 将来の目標

##### ① 今後の進路、将来の目標・夢

将来の夢はまだ明確ではありませんが、英語を使う職業に就きたいので、その目標達成のために英語学習を一生懸命続けていこうと思います。



クラスの日本人と中国人だけで行ったパーティの時の写真です。

日本と中国の文化の似ているところ、異なるところがいろいろと分かり、とても楽しかったです。



最初のか月間同じクラスだったブラジル人の友人との写真です。

学校に最後登校する日にわざわざ学校まで会いに来てくれて、彼女の故郷から持ってきたというプレゼントまでいただき、とても感動しました。